

# ア ウ ト リ チ

## 通信



第22号

2013年9月20日発行  
年2回発行

神戸女学院大学音楽学部  
アウトリーチ・センター

### 子どものための コンサート・シリーズ

#### 七夕コンサート

「子どものためのコンサート・シリーズ」第三十六回「子どものための七夕コンサート」わたしらしくくらしつくく♪」を七月六日(土)、本学講堂で開催しました(第一部 十一時開演、第二部 十五時半開演、来場者数・第一部 四百五十名/第二部 二百十五名、計六百六十五名)。出演者は「音楽によるアウトリーチ(実習)」履修生と賛助出演者合わせて十名です(ピアノ・

山本里紗、楠原結実、寺川優衣、声楽・山田絵梨香、フルート・廣瀬紀衣、山川美和、ハープ・田中茜、ホルン・増田明日香、ミュージッククリエイション・松尾璃奈、企画協力・益田多夏)。

今回の七夕コンサートのテーマは「わたしらしくくらしつくく♪」。子どもたちに「私らしく、僕らしく」自由に発想してほしいという願いと、私たちが勉強しているクラシック音楽にもたくさん触れてほしいという思いを込めました。

開幕はアーレン作曲(虹の彼方に)。耳なじみのある曲をソプラノと四種の楽器で演奏し(松

尾璃奈編曲)、暗譜したこと子どもたちとの距離をぐっと縮めることができました。

次は、モーツアルトの(きらきら星変奏曲)をフルート二本、ハープ、ホルン、ピアノで演奏(吉田梨絵編曲)。出演者各人の個性を活かした表情豊かな編曲でこの変奏曲を楽しんでもらいました。

雰囲気を変えて、フルート、ホルン、ピアノの三重奏(市川佳代子編曲)で



ビゼーのオペラ《カルメン》より「ハバナラ」。曲を聴いてどんな色を想像したか、客席に降りて子どもたちにインタビュして、答えてくれた色の星を会場の壁に映写する工夫をしました。



次は、声楽曲を二曲。マスカーニ作曲(アヴェ・マリア)とモーツアルトのオペラ《後宮からの誘拐》より「なんとという幸せ、なんとという喜び」です。ゆったりとした一曲目はハープとフルートと、キビキビした二曲目はピアノと一緒に聴いてもらいました。演奏後、二曲の印象を子どもたちに尋ねると、曲想の違いや感じた色を教えてくださいました。ここでも子どもたちの



イメージした色の星を舞台上方の壁に映写しました。

続いてドビュッシーの〈喜びの

島〉をピアノ独奏で聴いてもらいながら、思い浮かんだイメージを絵に描いてもらうアクティビティをしました。子どもたちの

反応が心配でしたが、色鉛筆をすらすら動かす様子が見えて安心しました。できあがった絵を高く掲げて見せてもらったり、近くのお友達と見せ合いっこしたりした後、「二人一人感じ方が違っていて、それを大切にしてほしい」と伝えました。

ここからは、テーマにあるクラシック音楽にこだわり、私たちが試験やコンサートで弾く曲から、短くて集中できる曲を選

んで演奏しました。まずプーランクの《フルート・ソナタ》より第三楽章。この曲の弾けるような躍動感に子どもたちが反応してくれている様子が印象的でした。続いてピアノ独奏でドビュッシーの《前奏曲集第二集》より〈火花〉。少し難しい曲でしたが、曲の終わりに現れるフランス国歌に注意を向けながら、真剣に聴いてくれました。

最後に、いずみたく作曲・松尾璃奈編曲の〈手のひらを太陽に〉、スペイン民謡〈幸せなら手をたたこう〉、下総皖一作曲・戸田英里編曲の〈たなばたさま〉を全員で演奏し、

会場の子どもたちも大きな声で歌ってくれました。そ



して拍手と笑顔の中、終演を迎えることができました。終演後には、今日活躍した楽器（ハープ、フルート、ホルン、トーンチャイム、ウインドチャイム）の体験コーナーを設け、たくさんの子どもたちが並んで挑戦してくれました。

今回は曲を聴いてどんな色やイメージを思い浮かべたのかをインタビュしたり、想像したものを絵に描いてもらったりするなど、初めての試みがあつて、企画もむずかしかつたのですが、できあがった子どもたちの絵のすばらしさを見て、演奏会の成功を実感することができました。

私たちが舞台で存分に演奏できたのは、お客様はもちろんのこと、支えて下さったアウトリーチ・センターのスタッフと学生スタッフの皆様、いろんな視点からアドバイスを下さったアウトリーチ要員の東瑛子さん、

そして温かく私たちを見守り指導して下さいました津上智実先生のおかげだと思えます。本当にありがとうございました。

(増田明日香・記)



# 学外アウトリーチ

## 兵庫県立芦屋特別支援学校

六月二十一日（金）本学めじ

ラウンジで、兵庫県立芦屋特別支援学校在宅訪問部の小学生三人を対象に「初夏のさわやかコンサート」（三十分）を行いました。実習メンバーは、山田絵梨香（声楽）、山川美和、鈴木晴子（フルート）、松尾璃奈（ピアノ）、田中茜（ハープ）の五人です。普段外に出ることのできない子どもたちに季節感を味わってもらう、生の音楽を聴いて、楽器にも触れてもらうと考えるプログラムを組みました。



作曲の〈ラデツキ行進曲〉を演奏しました。次に、フルート、ハープ、声楽によるマスカートニ



作曲 ヘアヴェ  
エ・マリア  
で美しい響きを  
味わってもし  
らいました。  
続く楽器体

験コーナーでは、自分の力で手を動かすことが困難な子どもたちにとどのように楽器の良さを伝えるか、工夫が必要でした。ハープやフルート等、



初めて触る楽器の音にびっくりしながらも、音を感じてくれている姿が印象的でした。

その後、ハープとフルートでビゼー作曲のオペラ《カルメン》

より〈間奏曲〉を演奏し、先ほど触れた楽器のそれぞれの音色に耳を傾けてもらいました。



次に、寺山修司作  
詞、大中恩  
作曲の〈か

なしくなるときは〉を独唱しました。詩の内容は深く重いもので、演奏するには勇気が要りました。しかし、みなさんは

すぐに演奏者を見て、聴いて下さいました。その様子から、この曲を演奏する際にめざしていた「人の心に染みる演奏」ができたのではないかと思います。

最後に、アゴゴ等の簡単な小物楽器を紹介して触れてもらい、それらを叩いてもらいながら〈幸せなら手を叩こう〉を今回のコンサートに合わせたバージョンで演奏しました。続けて季

節の歌〈たなばたさま〉と、最後に芦屋特別支援学校の校歌を、



歌いました。アンコールの声  
が掛かる  
ほど喜んで  
頂くことが  
できました。

当日は付き添いのご家族（四名）や引率の先生三名（木田祐子先生、千葉成子先生、藤原妙子先生）にも助けて頂いて、子どもたちとの交流を実現することができました。

私たちにとって初めてのアウトリーチ実習でしたので、プログラムの組み方などで悩んだ部分もありましたが、実習のいいスタートを切れたと思います。

（田中茜・記）

## 昨年度末の学外アウトリーチ

### 兵庫県立明石西高等学校

三月六日（水）兵庫県立明石西高等学校（明石市二見町西二見一六四二一）音楽室（音楽

教諭・石津寛乃先生）で、一年生三クラスを対象とする「トロンボーン・コンサート」（各五十分）を行いました。（トロンボーン・藤井美波、鶴房采花、吉田梨絵、ピアノ・松尾璃奈）

今回は、トロンボーンという楽器の可能性とおもしろさを知



り、体験することによって、トロンボーンに興味を持ってもらうことを目的としま

した。

高校生対象のアウトリーチは初めてで、戸惑いもありましたが、小学校の時よりも話の内容を高めながら、親しみやすく話すように心がけました。



音色を披露しました。

一曲目はトリオで、ムソルグスキーの組曲《展覧会の絵》より《プロムナード》（編曲・藤井美波）。まずは金管楽器の華やかな

二曲目はソロで、プッチーニのオペラ《トゥーランドット》より《誰も寝てはならぬ》（編曲・山口景子）。「歌う楽器」トロンボーンの魅力を伝えます。三曲目はデュオで、スコット・ジョプリンの《ジ・エンターテイナー》。この曲は出演者全

員で知恵を出し合って編曲し、

グリッサンドやフラッター等の特殊奏法や、ストレート・ミュート、ワウワウ・ミュート、マウスピースを使った音色の変化等、様々な仕掛けを盛り込みました。口笛を使って、生徒たちの笑いを誘う部分もありました。このようにトロンボーンのも



使用される音楽ジャンル等を詳しく説明しました。

様々な可能性を知ってもらった上で、音の出し方、楽器の歴史、

続いて、ピー・ボーン（プラスチック製トロンボーン）での楽器体験です。積極的な生徒もいれば、控えめな生徒もいましたが、音が



出た時は皆楽しそうでした。

最後にトリオで、デヴィッド・ウーバーの組曲《マンハッタン・ヴィネッツ》より、《イーストリバーに映る影》（パークアベニューのブールドル）《チャイナタウンでのパレード》《ヴィレツジの祝祭》《セントラルパークでの戯れ》



の五曲を、ニューヨークの地図や写真を使って、そ

れぞれの情景を説明しながら演奏しました。三クラスでの実施で、回を重ねる毎に緊張もほぐれ、生徒たちとうまく接することができたので、楽しんでもらえたのではないかと思います。

（吉田梨絵・記）

三月七日（木）十四時から、国立病院機構刀根山病院（大阪府豊中市刀根山五丁目一―）で「早春コンサート」音のブーケ」（六十分）を行いました。（声楽・松田彩起子、ピアノ・熊谷瑞季、祐成麻奈未、チェロ・湯浅亜佑美、トロンボーン&ミュージッククリエーション・吉田梨絵、トロンボーン・鶴房采花、藤井美波）

私たち二〇一―二年度生にとっては最後のアウトリーチ実習で、一年間の集大成の場となりました。さまざまな楽器の音色を「音のブーケ」としてプレゼントしたいと考えて、全体のプログラムを構成しました。

まず滝廉太郎〈花〉を出演者全員で合唱し、続いてマスカーニの〈アヴェ・マリア〉と山田耕筰〈この道〉を独唱。次にト

ロンボーン三重奏でデヴィット・ウーバーの組曲〈マンハッタン・ヴィネツツ〉より〈エイ・ベニユーのプードル〉〈ヴィレツジの祝祭〉（セントラルパークでの戯れ）の四曲です。トロンボーン三本の華やかな演奏に盛大な拍手を頂きました。

次はお客様の参加コーナーで、〈三百六十五歩マーチ〉に合わせてゆつくりと身体を動かし、



へ幸せな  
ら手を叩  
こうで手  
拍子や足  
踏みに加  
えて、笑う  
ことで発  
声もしま

した。続いての春メドレー〈春が来た、春の小川、朧月夜〉では患者の皆様と歌で会場が一つになりました。

再び演奏に戻り、バッハ〈無伴奏チェロ組曲〉より



〈第一番プレリユード〉、プッチーニのオペラ〈トウランドット〉より〈誰も寝てはならぬ〉をトロンボーン二重奏で演奏しました。

最後に、美空ひばりの〈川の流れるように〉と文部省唱歌〈故郷〉を出演者全員のアンサンブル（吉田梨絵編曲）で演奏し、患者の皆様にも一緒に歌って頂いて、どこか懐かしい雰囲気になりました。

ちなみにこの〈故郷〉は、私たちの学年の楽器編成に合わせ履修生の吉田梨絵が編曲し、最初の実習であった「子どものための七夕コンサート」から演

奏してきた思い入れのある曲です。

終演後のアンコールに、もう一度聞きたい曲、歌いたい曲を会場のお客様に尋ねたところ、〈アヴェ・マリア〉〈川の流れるように〉〈ふるさと〉の三曲がリクエストされました。アンコールでは出演者も少しずつ表現を変え、会場の一体感をよりよく味わうことができました。大学生活の最後に、素敵な音のブーケを贈ることができたのではないかと思います。

最後に、ターミナルケアという厳しい状況に音楽を届けるむずかしさと同時に、全力で演奏する楽しさを改めて感じた実習でした。



（松田彩起子・記）

特定非営利活動法人 もみの木

三月十四日(木) 十四時半から、特定非営利活動法人もみの木(兵庫県神戸市鹿の子台北町一丁目二十番七号)にて「スプリングコンサート」(四十五分)を行いました。

対象は筋ジストロフィー患者の蔭山武史さんとご家族、蔭山さんのヘルパー二名の計五名。実習は濱悠理子(フルート、四回生)、山川美和(フルート、三回生)、古川莉紗(ピアノ、三回生)、湯浅亜佑美(チェロ、四回生)の四名で行いました。

今回の実習の目的は、これから訪れる春のような暖かさや優しさ、喜びに満ちた躍動感を感じる曲を取り入れ、心温まるような音楽を届けることで、それをめざして構成しました。事前にリクエスト曲を伺って、ご希望の曲も三曲織り込みました。

自然な感じでコンサートが始めたかったので、まず華やかなフルートとピアノの演奏でヨハン・シュトラウス作曲「春の声」。



続いてヨハン・ゼバスチャン・バッハの《無伴奏チェロ組曲》より「第一

一番プレリュード」では、深い音色と変化するメロディーをチェロで独奏。中田章作曲「早春賦」によるポエム」をフルートとピアノで演奏。雰囲気を変えてフランツ・リスト「愛の夢」のロマンチックで甘美なメロディーをピアノで独奏。ヘンデルの「ラルゴ」では、



愛しい人と  
の愛の追憶  
をチェロと  
ピアノで演  
奏しました。



コンヴァース作曲、七瀬あゆ子編曲「星の世界」では、讚美歌(いつくしみ深き)としてなじみのある曲を伸びやかな響きのフルート二重奏で演奏。

続いて、フルート二本にチェロを加えた三重奏で、ヨーゼフ・ハイドンの《ロンドン・トリオ》より第一楽章。そしてドビュッシーのピアノ独奏曲「月の光」をフルート二本とピアノの三重奏(宮本明恭編曲)で演奏しました。

最後に、東日本大震災復興ソングとして作られた「花は咲く」(菅野よう子作曲、村上由紀編曲)を出演者全員(フルート二本とチェロとピアノ)の四重奏

で演奏しました。

今回のようなホームコンサートではお客様とのコミュニケーションが取りやすく、蔭山さんにコンサートを喜んで頂けたことを感じることができて、幸せで楽しい時間を過ごすことができました。



(湯浅亜佑美・記)



## お知らせ

### 第四回 音で遊ぼう！

#### 子どものための

#### 音楽作りワークショップ

十一月十六日(土) 九時三十分から十六時まで「第四回 音で遊ぼう!子どものための音楽作りワークショップ」を本学エミリー・

ブラウン記念館スタジオAで開催します。指導には、英国ロンドン市立ギルドホール音楽院からリーダーシップ・コースのプログラ

ム・リーダーを務めるシグルン・セヴァルスドットティルグリフィス(Sigrun Sevarsdottir-Griftfis)を招きます。

アイスランド出身の音楽家シグルンは、二〇〇〇年にギルドホール音楽院を卒業して以来、一貫して音楽ファシリテーターおよびワークショップ・リーダーとして活躍を続け、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団やロンドン交響楽団、英国ロイヤル・バレエ団等での実績があります。老若男女、ホームレスを含むさまざまな人々から音楽的アイデアを自在に引き

出して、それらを明確に記憶し、多彩に組み上げていく柔軟で強靱な音楽的力を有する人物です。シグルンのリーダーシップに触れることで、子どもたちや学生が啓発されて、のびのびと音楽作りをすると共に、その意義を感得するものと期待されます。

参加希望の子ども(小中高校生)はアウトリーチ・センターまで申し込んで下さい(要予約、参加費無料、定員四〇名)。

これに関連して、十一月十三日(水)から十六日(土)までの四日間、学生対象の音楽ワークショップ集中研修をシグルンの指導で実施します。卒業生や学外者にも有料で開放する予定です。関心のある方は、連絡ルームへお問合せ下さい。

(連絡先:音楽学部 連絡ルーム)  
TEL/FAX: 0798-51-8588)

#### 子どものための

#### オルガン・コンサート

日本を代表するオルガニストの

松居直美さん(聖徳大学音楽学部教授、本学音楽学部非常勤講師)に出演頂いて、十一月二十三日(土・祝)十一時から「子どものためのオルガン・コンサート」(神戸女学院「子どものためのコンサート・シリーズ」第三十七回)を神戸女学院講堂で行ないます。グリム童話「ロバの王子」を、大鹿智子さんの描いた美しいイラストと共に、お話とオルガンの名曲の数々で綴ります。ファンタジー豊かなお話と、パイプ・オルガンの魅力をたつぷりと味わえるコンサートです。

講堂二階の大オルガン(三段鍵盤、三十五ストップ、パイプ二五三六本)はもちろん、講堂一階右手の中オルガン(二段鍵盤、九ストップ、パイプ五九〇本)と移動可能な小オルガン(ポジティブ・オルガン、一段鍵盤、三ストップ、パイプ一四七本)も活用して、大中小三台のオルガンを使い分けての多彩なプログラムをお届けします。助演は学院オルガニストの片桐聖子さんと西山聡子さんです。

スヴェーリンクの〈我が青春の日々は終わらぬ〉変奏曲やクレラ

ンボアの〈第二旋法の組曲〉から、バッハの〈主よ、人の望みの喜びよ〉や〈幻想曲ト長調 BWV 五七二〉、ヘンデルの〈水上の音楽〉といったバロックの名曲を経て、フランクの〈前奏曲とフーガと変奏〉やヴェエルヌの〈ウエストミンスターーの鐘〉といった近代フランスのオルガン音楽まで、幅広い演奏曲を予定しています。どうぞご期待下さい。

#### 子どものための

#### クリスマス・コンサート

#### 企画公募の選考経過(報告)

十二月十四日予定の「子どものためのクリスマス・コンサート」の企画公募(六月末日締切)に、卒業生二グループから応募があり、現在選考中です。詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせします。

なお、来年度から企画公募の締切を五月末日としますので、応募を考えているグループは注意してください。

(以上、本頁の三項、アウトリーチ・センター長 津上智実)

## ♪今後の予定♪

### ◎アウトリーチ

- 2013年10月11日（金） 国立病院機構兵庫中央病院  
2013年11月12日（火） 西宮市立春風幼稚園  
2013年11月29日（金） 大阪市立総合医療センター  
2013年12月11日（水） 雲雀丘学園小学校  
2014年3月 国立病院機構刀根山病院（日程調整中）

### ◎ワークショップ

「第4回 音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」

日時：2013年11月16日（土） 9：30～16：00

場所：神戸女学院大学 エミリー・ブラウン記念館スタジオA

講師：英国ロンドン市立ギルドホール音楽院リーダーシップ・コース プログラム・リーダー  
シングルン・セヴァルスドットティル＝グリフィス（Sigrun Saevarsdottir-Griffiths）

対象：小学生～高校生 定員40名

応募方法：アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

### ◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第37回 子どものためのオルガン・コンサート」

日時：2013年11月23日（土・祝） 11：00開演（10：30開場）

会場：神戸女学院講堂

出演：松居直美（オルガニスト、聖徳大学音楽学部教授、本学音楽学部非常勤講師）

助演）片桐聖子（神戸女学院オルガニスト）

助演）西山聡子（神戸女学院オルガニスト）

入場料：大人1,000円、子ども（3歳～19歳以下）500円

※3歳未満のお子様のご入場はご遠慮ください。

応募方法：アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

## 音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一步踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場にてききな音楽のプログラムをお届けします。

♪**小中学校へ**：総合的学習支援プログラムとして、  
子どものための楽しい体験学習を！

♪**病院や美術館へ**：催しの趣旨に沿った手作りの音楽  
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター（月～金 10：00～15：00）

〒662-8505 西宮市岡田山4-1

TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551

E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp

http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

## 編集後記

後期は学外での実習が目白押しです！学生とともにがんばります！（寺澤）

秋のスペシャル・コンサート、パイプオルガンの音色にのせてグリム童話をお届けします（三上）

その時、その場所で、その瞬間しか生まれない音…コンサートってすてき！と思う今日この頃です（藤野）

4月から勤務しています。後期は実習やコンサートが盛り沢山なのでがんばります！（木村）

今年の履修生は少人数ながら力を合わせてぐんぐん向上！楽しみな学年です（津上）